

普及活動検討会実施報告書

(大河原) 農業改良普及センター

実施月日： 令和5年 2月 8日

実施場所： 柴田町

1 検討内容

No	検討項目
1	令和4年度プロジェクト課題の活動成果について No.1「令和元年東日本台風被災農地の復興に向けた担い手確保」 No.2「中山間地域農業を担う新たな営農体制の構築」 No.3「担い手の確保・育成による果樹産地の維持発展」 No.4「機械化一貫体系の導入によるたまねぎ産地の拡大」
2	令和5年度普及指導方針(案)について
3	令和5年度新規プロジェクト課題(案)について
4	総合検討

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	1
若手・女性農業者		学識経験者	1
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
検討課題(プロジェクト課題No.1) 「令和元年東日本台風被災農地の復興に向けた担い手確保」 について	4.1	<ul style="list-style-type: none">・台風被害地域で、根気強く寄り添い、復旧や地域の団結に対して大きな成果を残したと思う。・スマート農業等の将来の営農計画の提案により担い手不足のカギになったと感じた。・機械化一貫体系など、他の圃場整備地区における高収益作物栽培の取組の具体的なイメージが湧く、良い取組になったと思う。	<ul style="list-style-type: none">・引続き地域に寄り添うことを心掛けながら、活動を展開して参ります。・今後とも担い手不足解消につながる支援を継続して参ります。・スマート農業の実証は、限られた労働力で農地を維持するための手法の一つとして、将来の営農計画の提案をしました。今後、他地区での実証も検討して参ります。

		<ul style="list-style-type: none"> ・自動操舵システムの実証を行ったが、導入の実現までがプロジェクトとして成功といえるのではない。 ・継続した栽培支援で、安定した収入が得られることが大事である。 ・集落の労働力確保と健全な経営が課題だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県では、自動操舵システムを有効に活用できるRTK基地局を、県全域を網羅するように整備しております。今後もアグリテックの活用を積極的に推進して参ります。 ・次年度も引き続き、安定生産に向けた技術支援を行って参ります。 ・同地区では、法人設立を検討しており、今後とも健全な経営や新たな労働力確保の受け皿につながるよう支援して参ります。
<p>検討課題（プロジェクト課題 No. 2） 「中山間地域農業を担う新たな営農体制の構築」について</p>	3. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・6年以上の活動で、離農希望者が9割だった地域に法人の設立、運営を支援したのは大きな成果である。 ・高冷地における法人経営は、栽培適地の作物が少なく大変であるが、気候を生かした収益性の高いブロッコリー栽培の普及や、需要の高いさつまいもの栽培挑戦に取組、法人経営体制の構築に繋がったと思う。さつまいもについては高冷地であり、課題が多いと思う。 ・今後は後継者育成であり、地域ぐるみでの育成に期待したい。若い労働力を確保するため、作業体験やアルバイト雇用など工夫してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のまとめ役となるリーダーを中心に、法人設立を進めることができました。法人が地域の核となりつつあることから、他地域への波及効果も大きいと考えております。 ・ブロッコリー栽培については、安定生産につながる支援を継続して行って参ります。さつまいもの取組みについては、県内の他産地との情報交換を通し、関係機関等と連携して栽培や流通を支援して参ります。 ・後継者の確保につきましては、外部からの人材登用等、地域を巻き込みながら支援して参ります。
<p>検討課題（プロジェクト課題 No. 3） 「担い手の確保・育成による果樹産地の維持発展」について</p>	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・若手果樹生産者による自主的な活動につながったのは大きな成果といえる。 ・視察研修会やりんご剪定講習会など各地に足を運んで見ることは有意義な支援だったと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な活動が継続して行われるよう、令和5年度においてもプロジェクト課題で継続して支援して参ります。 ・勉強会や研修会は生産意欲を高める効果が期待できることから、令和5年度のプロジェクト課題で継続して実施して参ります。

		<ul style="list-style-type: none"> ・若手後継者に対して連携強化や先進技術の共有化や新たなブランドの創出など成功体験により成長を期待したい。 ・果樹園の賃貸については、水稻、畑作とは違って借主の技術習得に時間が掛ることや、機械化が難しいことから進んで来なかった。これからも行政と連携した研修生の積極的な受入支援により、果樹担い手育成に取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度のプロジェクト課題では樹種を超えたネットワークづくりなど連携強化を計画しており、活動の中で様々な成功体験に導き成長できるよう支援して参ります。 ・果樹はこれまで親元就農が一般的で、外部からの新規就農者が技術を学ぶ場がありませんでした。果樹の研修を受け入れてくれる農家を確保し、積極的な受入支援の体制ができましたので、来年度以降、関係機関と連携し活用を図って参ります。
<p>検討課題（プロジェクト課題 No. 4） 「機械化一貫体系の導入によるたまねぎ産地の拡大」について</p>	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県がタマネギの産地になりうる大きな期待を寄せられるプロジェクトである。グリーンな栽培体系への転換事業は大きな価値がある。積極的に取り組む農家が増えることを期待している。 ・このプロジェクトを通じてたまねぎ生産拡大や技術向上が図られてきた。圃場整備の高収益作物として、各市町による作業機械の導入支援等により、より一層の生産拡大を期待したい。 ・排水対策が難しく収量が伸びないことや機械のリースによる事業のため、適期作業ができないなど課題がある。農協との連携が鍵となると思う。 ・収益が出ることが規模拡大の条件である。リビングマルチや直播など先進技術導入による経費削減を積極的に取り入れる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度のプロジェクト課題において、本格的にリビングマルチ等を活用したグリーンな栽培体系の効果の検証とあわせて、生産者や地域に対する栽培体系への理解、浸透を図って参ります。 ・水田における排水対策や栽培技術の向上の支援を継続し、関係機関と連携しながら生産拡大を図って参ります。 ・ご指摘のとおり、水田でのたまねぎ栽培には、排水対策が必要であることから、普及センターでは、心土破碎などの排水対策の実証を指導していきたく所です。今後も農協や関係機関と連携しながら解決に向けて取組んで参ります。 ・経費削減につながる先進技術の導入については、現地実証を行いながら普及を図って参ります。
<p>令和5年度普及指導方針（案）について</p>	4. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題を的確に捉えた指導方針である。地域農業の継続と発展のため、指導してほしい。 ・いつ起こるかわからない自然災害に向けた支援体制を引き続き行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に地域の課題に対してアンテナを高くし、求められる支援を継続して参ります。 ・天候不順や自然災害など突発的な事象に対して、これまでの経験を生かして支援して参ります。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕畜連携の強化の支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度は、畜産堆肥の有効活用のための技術支援を重点活動として、耕畜連携を進めて参ります。
令和5年度新規プロジェクト課題(案)について	4. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手果樹農家のネットワーク構築のプロジェクトは、大変意義深い。 ・ 地域計画については情報共有し、策定の手本を示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手果樹農家は有望な後継者であり、樹種を超えたネットワークづくりを支援し、仙南の果樹産地を盛り上げていく存在になるよう支援して参ります。 ・ 地域計画の作成支援を通してモデルとなるよう取組みについては随時情報提供し、共有化を図って参ります。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果が上がった経緯や成果をマニュアル化し、他地区へ提案できると良い。 ・ 今後人材不足により、経営が立ち行かなくなる生産者が増えることが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果等は、適宜地域に情報提供し、マニュアル化できるものについては、作成して参ります。 ・ 若い世代が仙南地域で農業をやってみたいと思う魅力ある農業の創出や受け皿となる組織の育成など、関係機関等と連携しながら支援して参ります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する。